

令和6年2月13日

《臨時庁議資料》

今後の少子化対策の方向性

総合政策部 まちの魅力創造課
人口問題対策室

少子化対策の検討体制

データ分析



国・県・市が保有するデータの収集・分析

- ・ 国 : 国勢調査、人口動態統計、RESAS など
- ・ 県 : 茨城県人口動態統計、茨城県保健福祉統計年報 など
- ・ 市 : 常住人口調査、住民基本台帳人口 など

アンケート



高校生から大人まで、多様な声の把握

- ・ 市民 : 市公式LINE登録者 (LINE配信・7/15~インターネット調査、回答数:1,080)
- ・ 高校生 : 市内4校在学学生 (学校経由・10/18~インターネット調査、回答数:899)
- ・ 大学生 : 常磐大学が実施したアンケートを参酌 (回答数:324)
- ・ さんさん館利用者:期間中利用者 (利用受付時・1/25~インターネット調査、回答数:46)

会議



庁内での連携・共有・協議

- ・ デジタル都市推進課 : 定期的な打ち合わせ、データ共有
- ・ 少子化対策検討会議 : こどもに関連する部署の管理職で構成
- ・ // ワーキング : 若手・子育て中の職員で構成

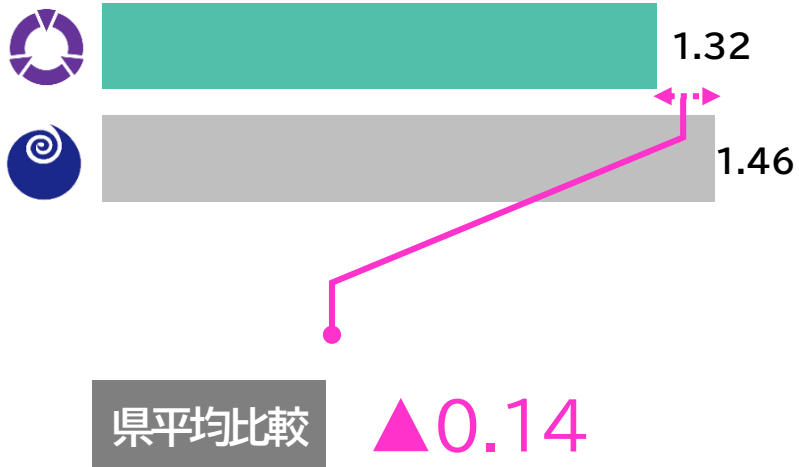


本市の現状整理【データ分析】

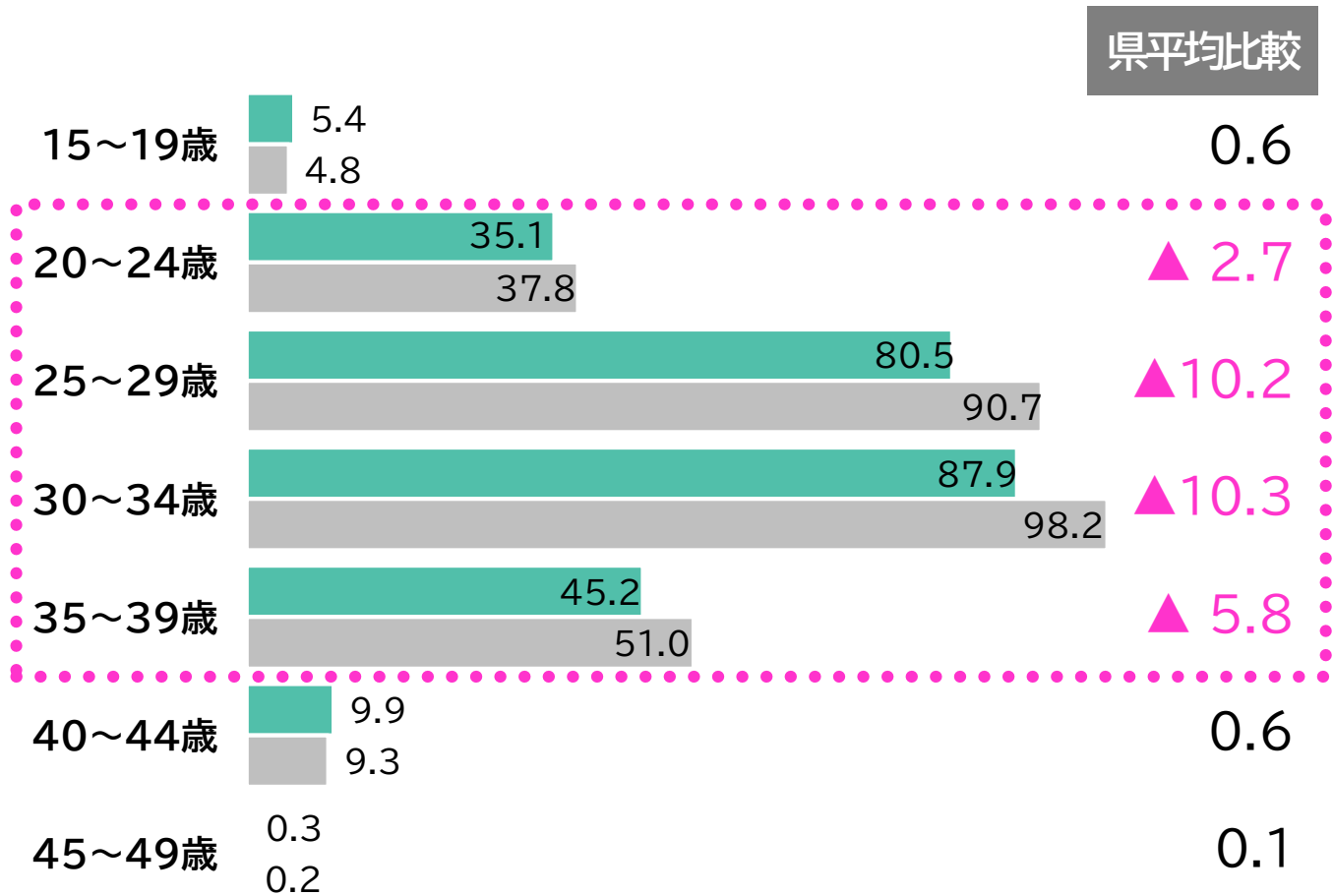
項目	現状	現状から見るポイント
 将来推計 人口動態	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然動態の減少幅が大きい ● 社会動態が増加した場合でも、自然動態は減少が続く 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ 今後も人口減少・少子化は進行する見込み
 合計特殊 出生率	<ul style="list-style-type: none"> ● 市は国・県を下回る水準になっている ● 25～39歳女性の年齢別階級出生率が低い（未婚率は県平均より高い） 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ 25～39歳女性の出産が増えれば、合計特殊出生率は改善する見込み
 こどもの 人数	<ul style="list-style-type: none"> ● 出生数の減少に伴い、減少傾向 ● 転入により、前年比の人数は増加傾向（出生数を上回る子どもの数） 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ 転入超過の現状から、出生数が増えれば少子化の抑制が可能
 出生	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1子の出生割合のみ県平均より低い ● 結婚後、1年以内に第1子を出産 ● 第1子・第2子・第3子の出産間隔は約2年 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ 結婚しても、子どもを授からない世帯が一定数増加
 家庭内の 子の人数	<ul style="list-style-type: none"> ● 約半数が第2子がいる世帯（0～17歳がいる家庭） ● 3歳以上がいる家庭では、「第1子のみ」の割合が増加（5年前比） 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ 一人っ子の家庭の割合が増えている

2013年～2017年の県・本市の合計特殊出生率の比較 (5年間の実績値)

合計特殊出生率



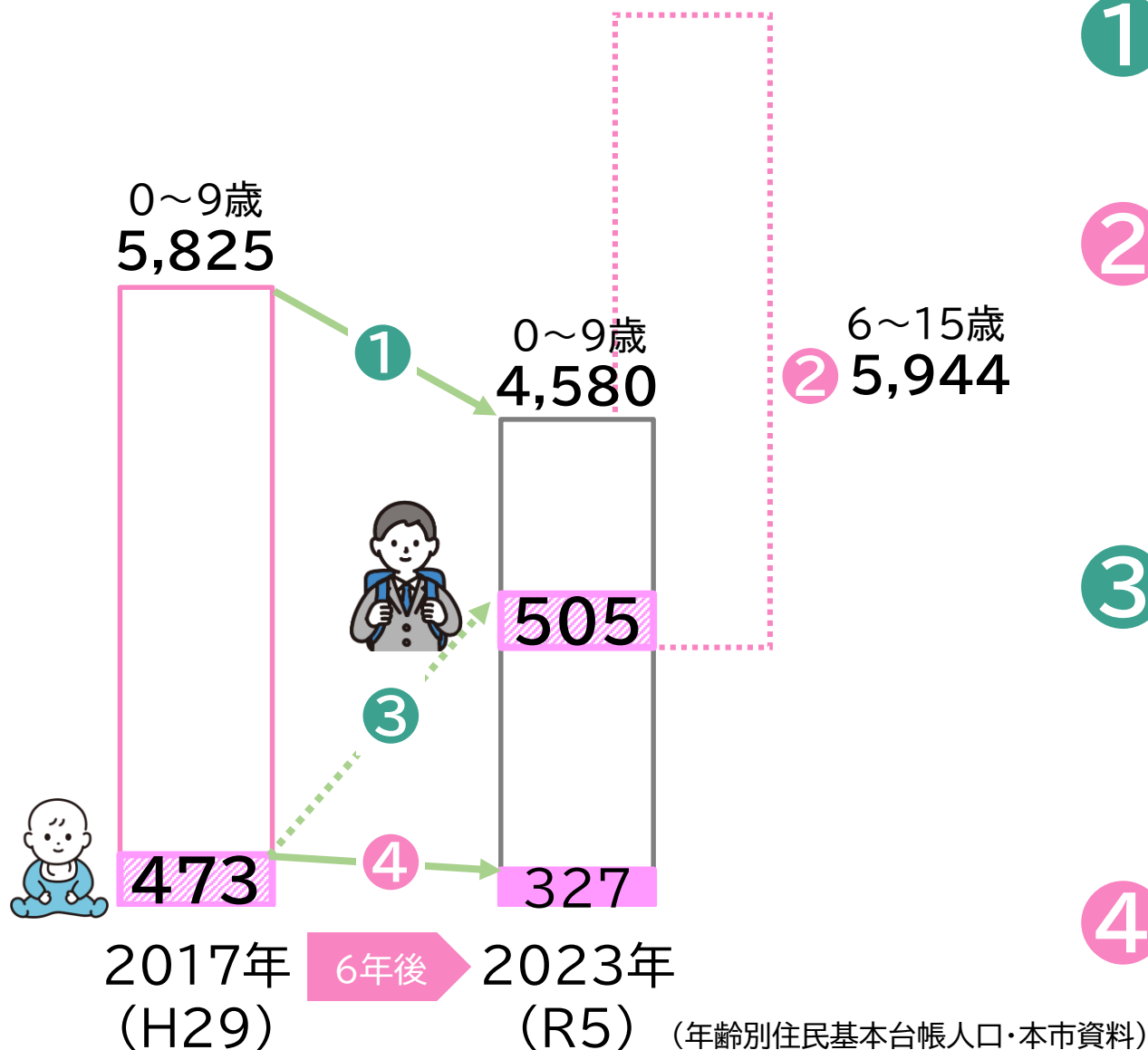
年齢階級別出生率(女性人口1000人に対する年間出生数の割合)



(人口動態保健所・市区町村別統計(厚生労働省))

県平均と比較し、特に20～39歳の女性が出産する率が低い傾向

2017年と2023年の0～9歳人口の比較 (6年後の比較)



① 0～9歳人口は減少傾向
▲1,245人

② 同年代のこどもは増加傾向

H29:0～9歳 5,825人

R5:6歳～15歳 5,944人

+119人 転入超過

③ 同年齢のこどもは増加傾向

H29:0歳 473人





R5:6歳 505人

+32人 転入超過

④ 出生数は減少傾向
▲146人



本市の現状整理【アンケート】

項目	現状	現状から見るポイント
 市民	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2子を産み・育てられている人は、周りからのサポートが大きい ● 第2子、第3子の出生に繋がらないのは、経済的・年齢的な意見が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ サポート体制により出生数は変化する ☑ 年齢を理由にこどもを産み・育てたることを躊躇
 高校生	<ul style="list-style-type: none"> ● 結婚を考えるのは、20代前半 ● 結婚の希望年齢は、20代後半 ● 希望の子どもの人数は、2人 ● 子どもを欲しい・育てたいと思えない理由は、経済的不安 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ 早い時点から将来について考えることが必要 ☑ 漠然とした経済的不安*からこどもの出生を躊躇
 さんさん館利用者	<ul style="list-style-type: none"> ● 親がリラックスできる時間や場所が少ない ● 様々な施設の開設曜日と時間の検討 ● 少しでよいので継続的な金銭面を含む支援 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ 親(特に母親)が自分らしく生活できる面のサポートの充実 ☑ 横の繋がりができる場
<p>(参考:常磐大学実施 県内大学在学学生アンケート)</p>		
 大学生	<ul style="list-style-type: none"> ● 結婚の希望年齢は、20代後半 ● 希望の子どもの人数は、2人 ● 子どもを持ちたくないとする理由は、経済的な面で不安 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ 高校生とほぼ同様の認識 ☑ 高校生より、経済的不安*を理由にする割合は高い

*結婚や子育てに、どの程度のお金が必要かを試算しているかは不明

アンケートから見えてきた子どもの数と理想にある様々な背景

産みたい・産めた理由

n=149



現時点で3人以上
子どもがいる家庭

周囲のサポートが手厚い

47%(99票)

環境

17%(37票)

こどもが好き、自然と

11%(24票)

n=29



現時点で子が2人以下
将来3人以上希望

周囲のサポートが手厚い

49%(26票)

経済的に安定している

23%(12票)

こどもが好き、自然と

11%(6票)

理想の子どもの数と現状の子の数のギャップ

n=154



現時点で子が2人以下
今後は難しい

年齢・体力等で厳しい

50%(171票)

経済的な不安がある

26%(89票)

周囲のサポートが受けづらい

13%(46票)

n=62



現時点で子が1人以下
今後2人までは希望

経済的な不安がある

39%(44票)

年齢・体力等で厳しい

34%(38票)

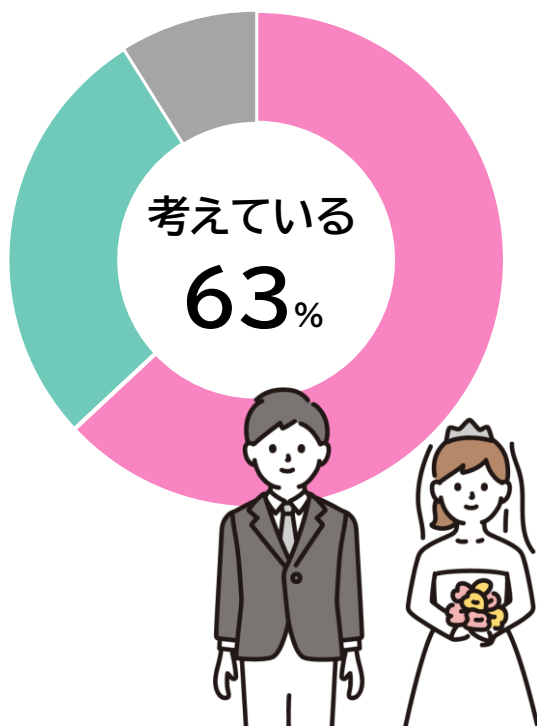
周囲のサポートが受けづらい

13%(15票)

子が3人以上の人ほど、環境・サポート重視。2人以下は年齢や経済を意識

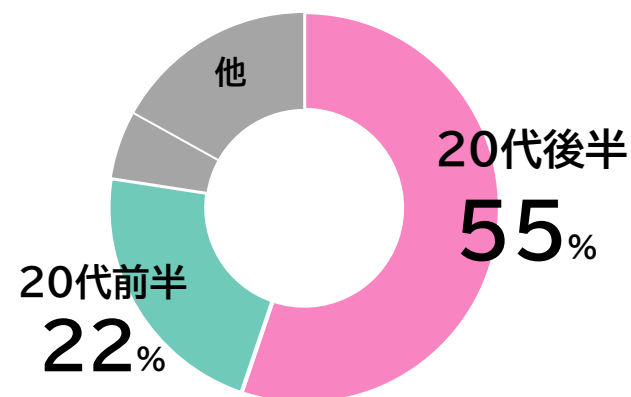
高校生の結婚観と結婚や出産・子育ての理想

■ 将来的な結婚(n=899)

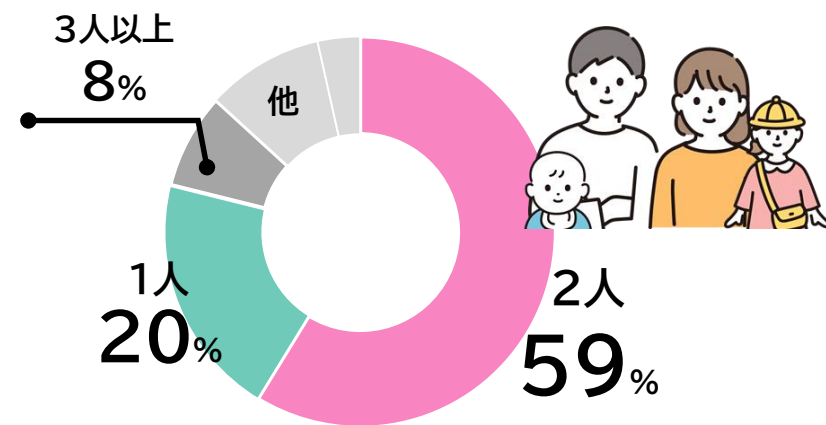


結婚を考えている
63%(567人)
のビジョン

■ 結婚の希望年齢(n=567)



■ 希望の子の人数(n=567)





(参考:常磐大学実施 県内大学在学学生アンケート)

■ 将来的な結婚(結婚を考えている)75%

■ 結婚の希望年齢(20代後半)75%
■ 希望の子の人数(2人)56%



本市の現状整理【会議】

項目	現状	現状から見るポイント
 <p>少子化対策 検討会議</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 妊娠・出産・子育て・教育までの取組は、一定程度実施しているのではないか？ ● 結婚・妊娠までの取組が必要ではないか？ ● 若い世代、特に女性の流出を抑制できれば、人口減少、少子化の抑制になるのでは？ ● 女性の働く場所(活躍できる場)が必要では？ ● 担当課のみで少子化対策を検討するより、関係課で検討すべきでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ 子育て支援の取組は一定程度実施している ☑ 若者の流出防止の取組も必要 ☑ 少子化対策検討会議は、継続して開催し、市全体で検討すべき
 <p>ワーキング</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 1人目を育てている最中に、2人目のことを考えている時間は少ないのでは？ ● 晩婚化自体が少子化の問題では？ ● 龍ヶ崎は、第1子を早い年齢で産むと、第2・3子とスムーズに生まれている印象 ● 市民は龍ヶ崎で子育てにかかる費用の安さ(手厚い支援)に気づいていない ● 就活以降～大学卒業までに交際経験がある人はライフプランを考えている人が多い印象 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ 子育て支援策のみだと、今後も少子化対策の議論が繰り返されることが想定 ☑ ライフプランを考えるなど、長期的な視点で検討する必要あり ☑ 各フェーズ(短期・中期・長期)でのペルソナの設定が必要

少子化対策の方向性の整理

本市の現状や市民アンケート、職員ワーキングを経た上で少子化対策として、以下の3つの項目で今後の方向性を整理する。

1

一過性の経済的支援や、短期的(即効性)な事業だけでは、数年の間に同様の議論が繰り広げられる可能性が高い。そのため、**中長期的な視点ももって取り組む**。

2

事業を実施するにあたっては、新規事業としての企画立案はもとより、**既存事業の見直し(スクラップ)やリニューアルの視点**が肝要。

3

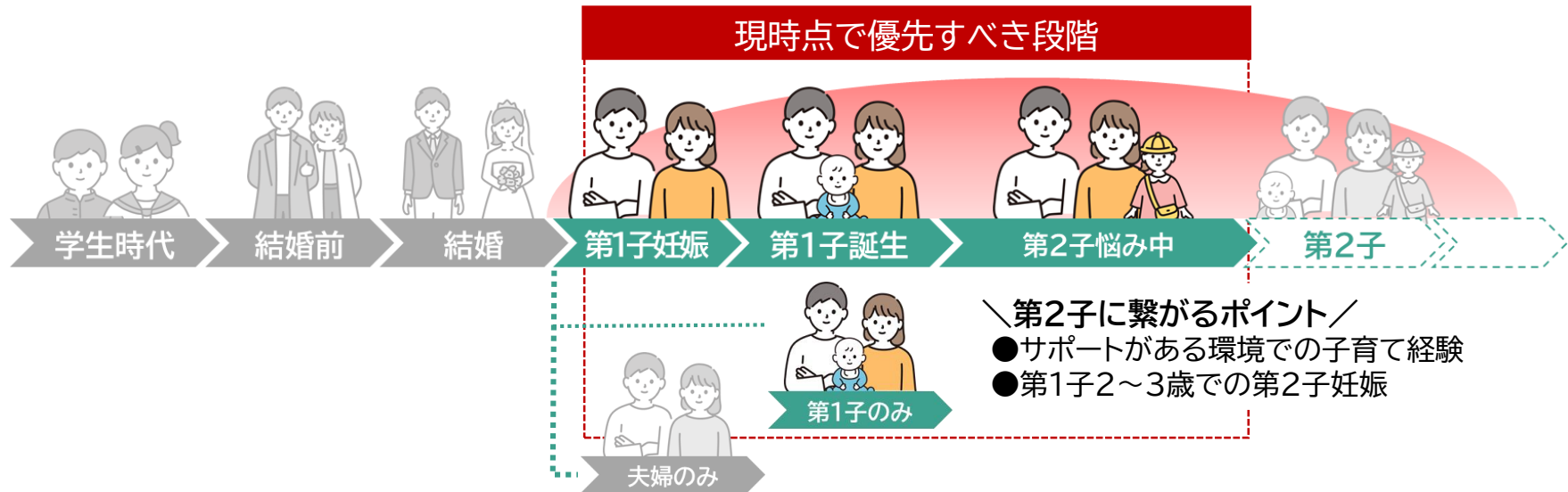
少子化対策は、市民の居住環境や子育てに対する満足度向上に繋がるものでもある。担当課のみが行うのではなく、**オール龍ヶ崎で行うという俯瞰した視点**が重要である。

少子化対策の方向性の整理

■ 当初想定とWGを踏まえた意見の整理(高校生アンケートなども踏まえた上)

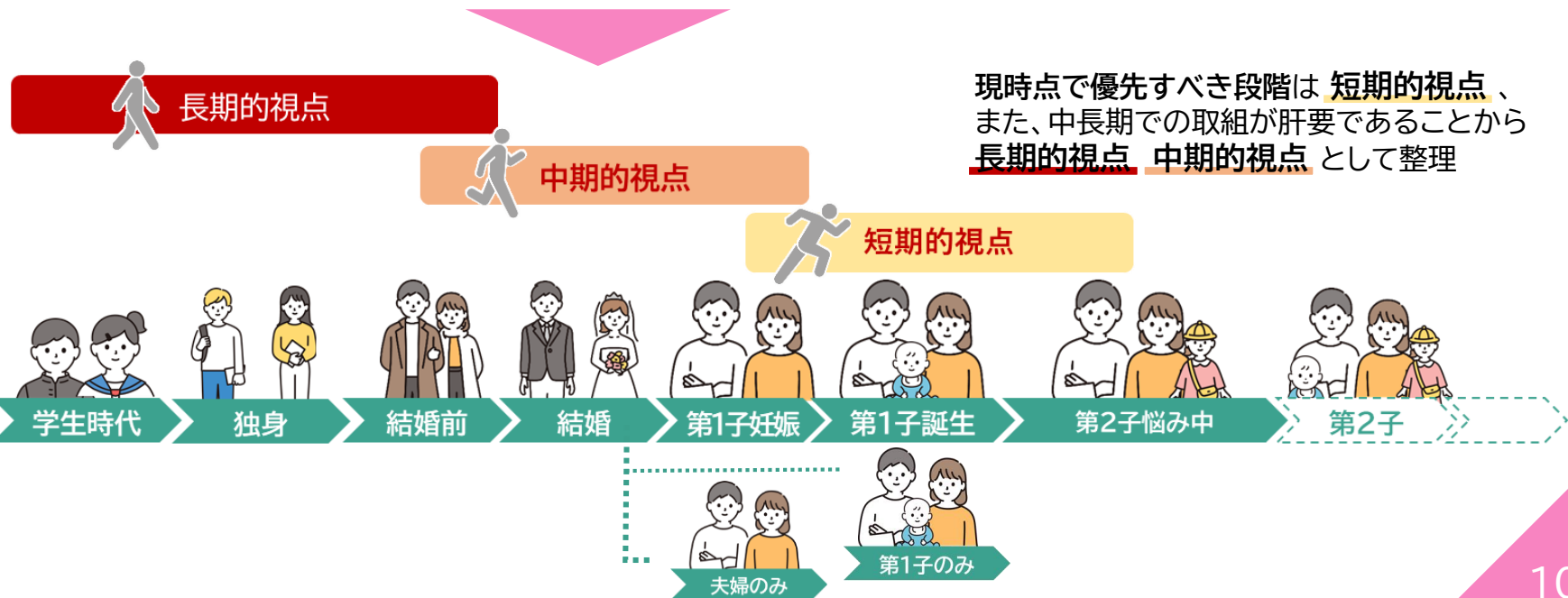
当初
(中間報告)

即効性中心



最終
(ワーキングを経たもの)

長期的視点



少子化対策の方向性の整理

■ WGを踏まえた少子化対策の方向性の整理(高校生アンケートなども踏まえた上で)

区分	対象 (ペルソナ)	実施施策イメージ	アンケートから見る具体的な内容イメージ
短期 出産・子育てに 対する支援	1人目を 子育てしている 30代前半女性	<ul style="list-style-type: none"> 子育て環境の優位性の認知獲得～利用促進 子育て期における周囲のサポートの充実(家族・行政・地域など) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 祖父母の子育てへのサポート ✓ 施設の利用可能曜日や時間の検討 ✓ 子育て中の方が気軽に相談しやすい環境 ✓ 行政からの切れ目ない情報発信 ✓ 子育てしやすいと感じる街づくり(公共施設内の環境や道路などのハード面含む)
中期 若者世代の 定住人口確保	社会人で 交際相手がいる 20代前半女性	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ライフプランを考えるきっかけづくり ✓ 龍ヶ崎の居住環境の優位性の認知獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ライフプランセミナーの開催 ✓ 行政から若者世代に対する情報発信の充実
長期 出産・子育てに 対する支援	交際相手か できたばかりの 男子大学生	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ライフプランを考えるきっかけづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 学校などでライフプランの授業実施 ※交際相手を見つける出会いの場も必要?

これらの方向性に基づく事業を実施するにあたっては、新規事業としての企画立案はもとより、**既存事業の見直し(スクラップ)**や**リニューアルの視点**が肝要

各フェーズでのペルソナ(人物像)

短期的視点



2人目の出産へ・・・

祖父母からも含めたサポートの充実&悩みを解決できる場所の認知

プロフィール

年齢 | 31歳 性別 | 女性

キャラ | 第1子を30歳の時に出産・現在育児休業中

ゴール

- ✓ すでにあるサポートを知っていて、使っている。
- ✓ 祖父母も理解があり、サポートをしてくれる体制がある
- ✓ 少しでも悩みを話せる関係性があるパパ・ママ友がいる
- ✓ 第2子を35歳前後で出産している

エピソード

- 龍ヶ崎市出身・在住で、現在子育て中。28歳で結婚。理想は30歳くらいで2人目の子どもが欲しかったが結婚の時期がずれたり、子どもが授かれなかったりで、想定よりも若干ずれている。
- こどもは、自身が3人姉妹のため、兄弟はいてよいと思っているが、一人目の子育ての大変さも感じており、2人目のタイミングは悩んでいる。
- 現在、賃貸に住んでおり、家を建てることを考えだしたが、場所では悩んでいる。
- ただ、子育ては実家のそばのほうが、子育てしやすい生活という認識をしているが、龍ヶ崎の子育てのしやすさや首都圏との比較での子育ての経済的負担の少なさには気が付いていない。
- 子育てをするのには経済的不安も若干あり、共働きはしたいと考えているが、仕事と子育ての両立は大変と感じており、通勤時間45分が子育てをするには負担になるかもと感じだしている。

各フェーズでのペルソナ(人物像)

中期的視点

龍ヶ崎が将来の選択肢に入るライフプラン・まちづくり・魅力の視点が重要



プロフィール

年齢 | 24歳 性別 | 女性
キャラ | 社会人2年目、交際相手あり(交際歴2年)

ゴール

- ✓ 経済的な面も含めたライフプランを具体的に考えている
- ✓ 龍ヶ崎で子どもを育てたほうが生活しやすいと感じている

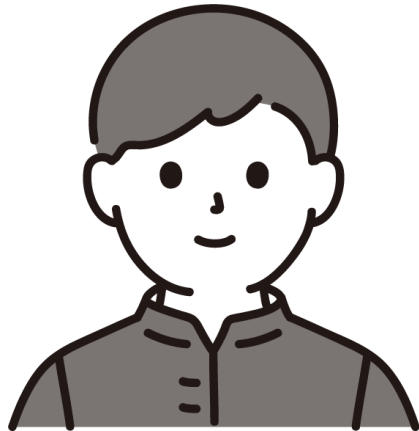
エピソード

- 龍ヶ崎市出身で社会人2年目の実家暮らしで、勤務先は千葉県柏市。仕事は少し残業があり、龍ヶ崎への帰宅時間は午後8時くらいになることもある。
- 就職してすぐ、同じ職場の同期の男性(我孫子市出身)と意気投合して、付き合いはじめて2年が経過し、そろそろ結婚も視野にと考えだしてきた。
- 結婚後は、龍ヶ崎も良いけど、アパートやマンションで良いので、もう少し便利なところで暮らしたい気持ちもある。
- 将来的には子どもは欲しくて、家を建てるなら実家がある龍ヶ崎の方が良いと思っている。
- ただ、結婚をして、出産・育児のために仕事を休むのが不安に感じていて、場合によっては、退職しても良いと考えだした。
- 理想の子ども数は、3人。ただ現実には、厳しいかもと周囲の様子を見ながら感じている。

各フェーズでのペルソナ(人物像)

長期的視点

ライフプランを考えるきっかけづくり



プロフィール

年齢 | 21歳 性別 | 男性
キャラ | 大学4年生、就職活動を行っている

ゴール

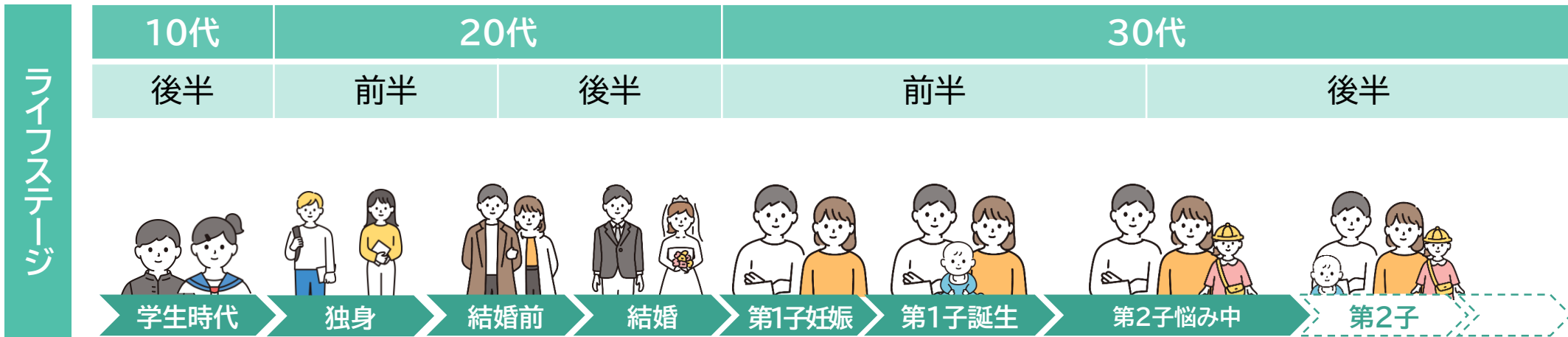
- ✓ 就活時には**ライフプラン**を考えている
→ ライフプランが固まらないと、結婚・子育てに繋がらない
- ✓ 最終的には、龍ヶ崎で子育てしているのがベスト

エピソード

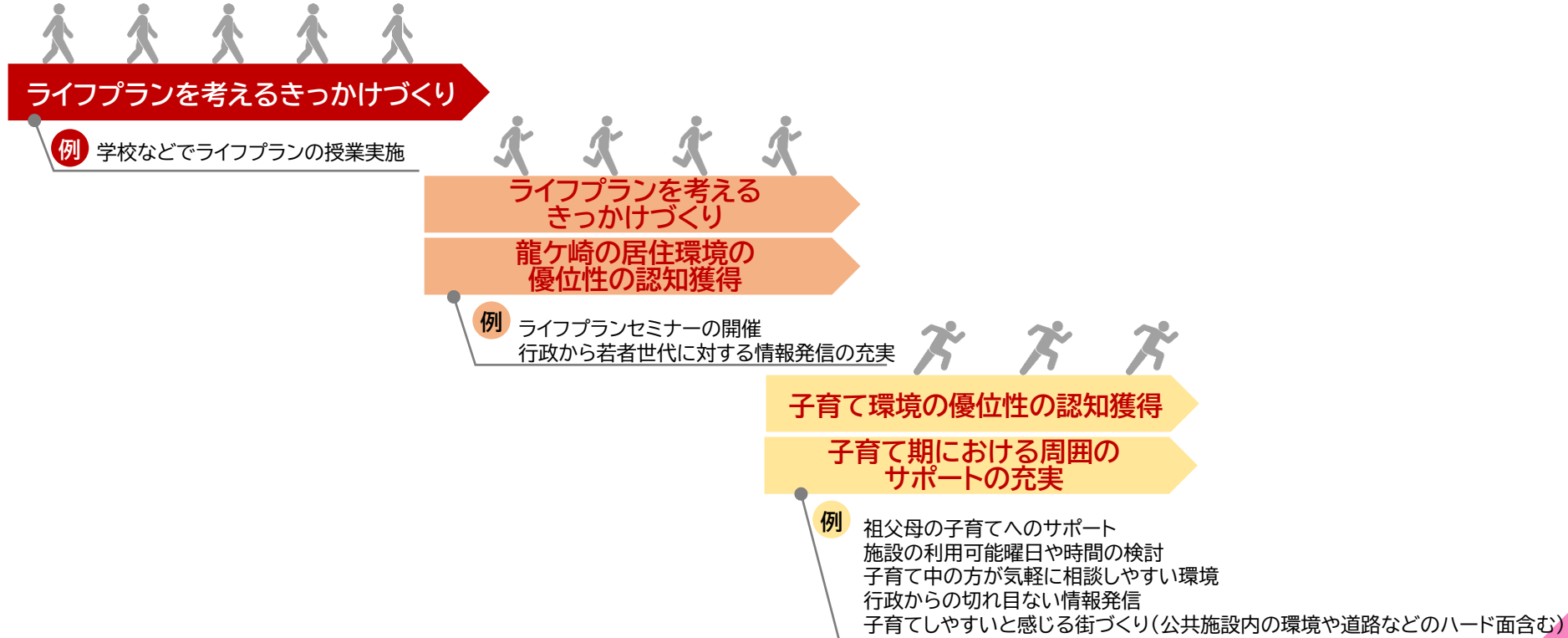
- 市外出身だが、流通経済大学への入学とともに龍ヶ崎市に引っ越ししてきた。
- 大学3年の春に龍ヶ崎在住の社会人1年目の女の子(22歳)と友人から紹介されたマッチングアプリで出会い、付き合いだして、1年が経過した。交際経験はそれほど多くはなく、付き合い始めた彼女は女の子を含めて2人。
- 今の彼女とは、就職して数年したら結婚するのもかもしれないと漠然と考えだした。そのため、就職活動は地元よりも首都圏で行い、将来的には龍ヶ崎に住んでも良いかなとも思っている。
- 本人は、2人きょうだい(姉がいる)で、自分が結婚したときには、最低子どもは2人欲しいと考えている。
- アルバイトをしていないため、貯金はあまりなく、学生のため親の援助で生活している。「お金ないんですよ」が口癖で、就職後すぐの結婚は経済的にも不安が残っている

少子化対策の方向性の整理

■ 理想のライフプラン



今後の少子化対策の方向性



今後のスケジュール

令和5年度

- 臨時庁議(令和6年2月)
- 今後の少子化対策の方向性を庁内共有(令和6年2月)

令和6年度

- 少子化対策検討会議の開催(令和6年4月~)
- 少子化対策の方向性を踏まえた事業展開の検討
(各課実施事業のリニューアルやスクラップなど、今回提案する方向性にあった事業展開を集中的に行うために横連携)
- 中期事業計画調査票の提出(令和6年8月~)
(必要に応じて、補正予算で対応も検討)

令和7年度

- 今後の少子化対策の方向性を踏まえた事業展開(令和7年4月~)
(新規事業、既存事業の見直し など)